

# 地域振興県土警察常任委員会資料

(平成30年7月3日)

- 1 中央大学、公立鳥取環境大学及び鳥取県との連携協力に関する協定について

【教育・学術振興課】・・・1ページ

- 2 鳥取県立県民文化会館フリースペースの暑さ対策について

【文化政策課】・・・2ページ

地 域 振 興 部

# 中央大学、公立鳥取環境大学及び鳥取県との連携協力に関する協定について

平成30年7月3日  
教育・学術振興課

大都市の大学との教育・研究活動の交流及び連携・協力を推進するため、6月19日(火)、中央大学、公立鳥取環境大学及び鳥取県との連携協力に関する協定を締結しました。

## 1 調印式

- (1) 日 時 6月19日(火) 午後1時から1時30分まで
- (2) 場 所 知事公邸
- (3) 出席者 中央大学福原学長、公立鳥取環境大学江崎学長、平井知事
- (4) 次 第 出席者紹介・協定書署名・記念撮影・署名者挨拶・質疑応答



## 2 連携協力事項

教育・研究活動の交流及び連携・協力を推進し、両大学の社会貢献活動及び学術研究の充実並びに鳥取県の地域の活性化に資する次の事項

- ① 学生の交流 ② 教職員の交流 ③ 共同の教育・研究プロジェクトの推進 ④ 施設の相互利用 など

### 【H30年度連携事業】

#### ① サマースクールの実施

中央大学で環境にかかる教育プログラムを履修する学生が、鳥取環境大学の学生と一緒に、浦富海岸での海洋環境にかかる現地学修や、岩美むらなかキャンパスでの水産関連施策に関する学修、県栽培漁業センターでの栽培漁業関連施設の視察など、地域資源を活かしたフィールドワークやディスカッションを行う。

- ・実施日：平成30年8月29日～8月31日(2泊3日)
- ・テーマ「海洋生物資源の持続的な利用 -鳥取県の水産関連施策の背景」
- ・参加学生：20名(各大学10名)

#### ② 中央大学で開催される成果報告会

年内をめどに、中央大学八王子キャンパスで行われる成果報告会に、サマースクールに参加した鳥取環境大学の学生を派遣し、学生同士の交流を深める。

## 3 調印式あいさつ概要

### (1) 中央大学福原学長

中央大学は、創立者の1人が鳥取県の出身であり、鳥取との関係を大事にしている。サマースクールでは、これからの社会にとって環境、美しい自然を残すための方策について、素晴らしい自然、環境の中で学修させていただく。鳥取は少子高齢化や地方創生など、地方が抱える課題を考える場としてよいところであり、これからの取組を通じて、鳥取で働きたいという学生を、中央大学から輩出することができたらうれしい。

### (2) 公立鳥取環境大学江崎学長

このたびの協定締結を通じて、環境大学の学生が、中央大学の教育、学生と関わる機会を得たことをうれしく思う。今後、中央大学が持っている法学等に関する素晴らしい教育内容について、環境大学の学生が学ばせていただくことができるよう、この縁を発展させていきたいと思う。

### (3) 鳥取県平井知事

中央大学とは、昨年度、就職支援協定を締結しており、このたびの協定締結を通じて、真の交流、様々なプロジェクトが進んでいけばありがたい。今、地方創生で、サテライトキャンパスという形で、首都圏の大学が地方と結びつきあって、東京に一極集中しがちな若者の流れを変えていこうという方向性が出ている。これから、環境大学と交流を深めていただき、学生・教員の交流や、単位互換、サテライトキャンパスなどへ繋がることを期待している。

## 4 その他

### (1) 中央大学概要

- ・1885年(明治17年)、英吉利(イギリス)法律学校として設立以来、130年を超える歴史を持つ。
- ・6学部(法、経済、商、理工、文、総合政策)
- ・学生数：24,584人(鳥取県出身学生31人)、教職員数：1,110人(平成30年5月1日現在)

### (2) 鳥取県との関わり

- ・鳥取市出身の奥田義人(おくだよしと)は、中央大学の創立者の1人で、中央大学学長(第2期、第4期)、文部大臣、司法大臣、東京市長等を務めた。
- ・平成29年9月13日、県及びふるさと定住機構と、中央大学が就職支援協定を締結した。
- ・本県から、自転車競技の優秀な選手が中央大学へ進学しており、多くの国体入賞者を輩出している。

# 鳥取県立県民文化会館フリースペースの暑さ対策について

平成30年7月3日  
文化政策課

鳥取県立県民文化会館のフリースペースについて、建物の構造上、空調が効きづらくなっており、夏季の暑さ対策が課題となっているため、次のとおり対応することとし、引き続き効果的な方法を検討します。

## 1 フリースペースの現状

建物がガラス窓に囲まれているため、直射日光が当たる日は外気温に対して2～3℃高くなる時間帯・場所があり、6月～9月には、フリースペースが暑いとの意見が多い。

※フリースペースは、設計当初から、明るいガラス空間として、屋外の中庭空間と一体化を図って積雪のある冬季でもイベント広場や憩いの場となるよう準屋外扱いで設計されており、快適性を求めた空調空間として考慮されていない。

## 2 現在の暑さ対策（空調機器除く）

### (1) ドアや天窓の開放による換気

フリースペース内にある開閉式ドア（中庭側6枚、赤十字病院側4枚）及び排煙用の天窓28枚（中庭側・小ホール側に各14枚）を開放して風を通してている。（写真①②）

### (2) 扇風機の貸出し

フリースペースで受付等を行う利用者に、扇風機を貸し出ししている。

## 3 新たな暑さ対策

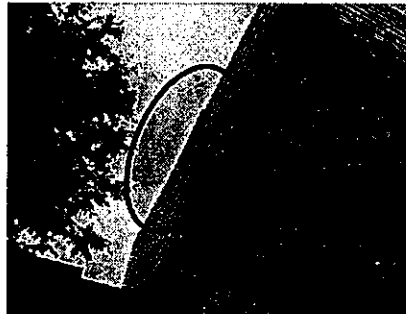
### ○スポットクーラーの設置

フリースペースで人が集まる場所など必要なところに可動式のスポットクーラー（写真③）を設置し、冷気を拡散する。

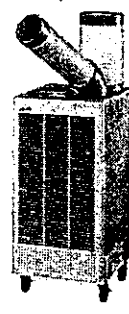
（写真①：中庭側の開閉式ドア）



（写真②：排煙用の天窓6枚開放時）



（写真③：スポットクーラー）



## 4 暑さ対策の検討状況

(1) 平成16年度に、会議棟2階ロビー及びホール棟ロビーの温度改善策に係る技術的な助言を設計事務所に依頼。その結果、空調機を増設して気流（風）が当たることでより涼しく感じられるようにする提案があったが、機器及び配管の設置スペースの課題もあり、予算化には至っていない。

(2) 平成27年度当初予算要求において、直射日光の遮熱及び断熱等に効果的なコーティング剤をガラス窓に塗布する工事（83,560千円）を検討したが、耐久性・費用対効果等を勘案して保留とした。

(3) なお、フリースペースを含む空調については、設置以来25年が経過しており、中長期保全計画において計画している機器更新も含めて対策を検討することとしたい。